

令和7年度学校評価アンケート調査結果について

1 調査期間及び対象

(1) 調査期間

令和7年11月5日(水)～令和7年11月21日(金)

(2) 対象及び回収率

- ①教職員 100名：回答者 100名(回収率 100%)
- ②保護者 166名：回答者 147名(回収率 88.6%) *児童生徒数=保護者数 お子様1人につき1回答
- ③生徒

中学部 44名：回答者 42名(回収率 95.5%) 有効回答 38名 無効回答 4名 *2名は入院中
 高等部 48名：回答者 48名(回収率 100%) 有効回答 39名 無効回答 9名

◎無効回答とは、表情や行動による意思の確認が難しく、教師による代筆が適切でないと判断された場合や、質問の内容を十分に受け止めることが難しく、明確な反応が得られなかった場合を指し、全問無回答となったもの。

2 調査結果から

(1) 教職員の自己評価

ア 概要 (R7 調査においては、調査対象の教職員数が 100 名であったため、1%=1名である。)

項目	質問内容	令和7年度			令和6年度		
		肯定的評価	否定的評価	わからない	肯定的評価	否定的評価	わからない
Q1	私たちは、児童生徒一人一人に適切な指導・支援を行っていますか。	97.0%	3.0%	0%	97.9%	2.1%	0%
Q2	私たちは、教育目標の達成に向け、全員が協力して教育活動を行っていますか。	97.0%	3.0%	0%	97.9%	2.1%	0%
Q3	私たちは、児童生徒の成長に応じた教育内容と指導を行っていますか。	97.0%	3.0%	0%	99.0%	1.0%	0%
Q4	私たちは、学習会や配付物等を通じて児童生徒の将来に必要な情報を保護者に提供したり、個別の相談に応じたりしていますか。	98.0%	2.0%	0%	95.9%	4.1%	0%
Q5	私たちは、児童生徒の生活や学習の場面を通して、将来の自立や社会参加につながる力を育てることを意識していますか。	99.0%	1.0%	0%	94.8%	5.2%	0%
Q6	私たちは、基本的な生活習慣や挨拶などのマナー、生活の技能を身に付ける学習を家庭と協力して行っていますか。	97.0%	3.0%	0%	96.9%	3.1%	0%
Q7	私たちは、自然災害、火災や事故等に対応した安全指導を適切に行っていますか。	96.0%	4.0%	0%	99.0%	1.0%	0%
Q8	私たちは、校舎内外において、安全に配慮した教育活動を行っていますか。	97.0%	3.0%	0%	99.0%	1.0%	0%
Q9	私たちは、保護者と連携しながら、児童生徒の健康増進・疾病予防に努めていますか。	94.0%	6.0%	0%	96.9%	3.1%	0%
Q10	私たちは、食育に関心を持ち、学校給食を活用した継続的な取組を推進していますか。	95.0%	5.0%	0%	99.0%	1.0%	0%
Q11	私たちは、いじめの未然防止・早期発見に取り組んでいますか。	98.0%	2.0%	0%	99.0%	1.0%	0%
Q12	私たちは、連絡帳・学部通信・学級通信等の、学習における記録を通じて家庭との連携や共通理解を図っていますか。	99.0%	1.0%	0%	100%	0%	0%
Q13	私たちは、校報・ホームページ等を利用し地域に発信する取り組みを行っていますか。	100%	0%	0%	97.9%	2.1%	0%
Q14	私たちは、PTA活動の充実、活性化に取り組んでいますか。	98.0%	2.0%	0%	94.8%	5.2%	0%
Q15	私たちは、教育環境の整備に努めていますか。	98.0%	2.0%	0%	97.9%	2.1%	0%
Q16	私たちは、学校予算の適切かつ効果的な運用に努めていますか。	100%	0%	0%	97.9%	2.1%	0%
Q17	あなたは、本校が働きがいのある職場だと思いますか。	93.0%	7.0%	0%	91.8%	8.2%	0%

※ 網掛けは、積極肯定「大いにそう思う」と回答した結果が30%未満の項目

- ・質問項目は全部で17項目。
- ・自己評価の集計結果を「大いにそう思う」と「そう思う」を合わせて肯定的評価とし、「全く思わない」と

「あまり思わない」を否定的評価とした。

- ・今年度は、17項目中15項目で肯定的評価が95%以上となっている。(昨年度より1項目増)

イ 分析と考察

- ・肯定的評価が95%を超えた項目は、17項目中15項目で昨年度に引き続き高い評価であった。
- ・積極肯定「大いにそう思う」と回答した結果が30%以上の項目が15項目あり、昨年度と同様の結果となった。引き続き多くの教職員が日々の教育活動に自信をもって取り組んでいると捉えた。
- ・肯定的評価が増となった項目のうち、Q4、Q5は進路指導に関する設問で、今年度、質問の仕方を変更した箇所である。「進路指導」というと狭義に捉えられがちであることなどから、質問の仕方の一部変更した項目である。小中、中高の隣接する学部間で学習の様子を見学したり体験したりする機会を設けていることや、花咲く丘プロジェクト2025で縦割りの活動を取り入れたことなど、普段の活動を評価できたものと捉えた。Q14については、PTA活動が、教職員主導から保護者主体の取り組みにさらに移行していることについて、教職員全体にも理解が広まっていることの表れと捉えた。Q17の職場への満足度を問う設問については、時短や負担軽減中心の働き方改革を進めるのと同時に「働きがい(=自己肯定感と安心感)」という視点をさらに大切にしていきたい。「働きやすさ」と「働きがい」の両立は難しい課題ではあるが、教職員一人一人がやりがいをもち主体的に働ける環境をつくる働き方改革をさらに推進していかなければならないと考えている。

(2) 保護者アンケートについて

ア 概要 (R7調査においては、0.7%=1名、3.5%=5名に当たる。)

項目	質問内容	令和7年度			令和6年度		
		肯定的評価	否定的評価	わからない	肯定的評価	否定的評価	その他
Q1	学校は、児童生徒一人一人に適切な指導・支援を行っていますか。	94.6%	4.8%	0.7%	97.6%	1.6%	0.8%
Q2	学校は、教育目標の達成に向け、全員が協力して教育活動を行っていますか。	90.5%	4.1%	5.4%	93.7%	2.4%	3.9%
Q3	学校は、児童生徒の成長に応じた教育内容と指導を行っていますか。	93.2%	4.1%	2.7%	95.3%	3.1%	1.6%
Q4	学校は、学習会や配付物等を通じて児童生徒の将来に必要な情報を提供したり、個別の相談に応じたりしていますか。	95.2%	2.0%	2.7%	96.1%	3.1%	0.8%
Q5	学校は、将来の自立や社会参加につながる力を育てることを意識した教育に取り組んでいますか。	93.2%	2.7%	4.1%	92.2%	3.1%	4.7%
Q6	学校は、基本的な生活習慣や挨拶などのマナー、生活の技能を身に付ける学習を家庭と協力して行っていますか。	92.5%	4.8%	2.7%	96.9%	2.3%	0.8%
Q7	学校は、自然災害、火災や事故等に対応した安全指導を適切に行っていますか。	92.5%	3.4%	4.1%	94.6%	2.3%	3.1%
Q8	学校は、校舎内外において、安全に配慮した教育活動を行っていますか。	93.9%	2.0%	4.1%	93.0%	2.3%	4.7%
Q9	学校は、保護者と連携しながら、児童生徒の健康増進・疾病予防に努めていますか。	89.8%	5.4%	4.8%	93.8%	3.1%	3.1%
Q10	学校は、心身の成長や望ましい食習慣の形成に向け、食育の取組や給食指導を行っていますか。	93.2%	2.0%	4.8%	90.6%	6.3%	3.1%
Q11	学校は、いじめの未然防止・早期発見に取り組んでいますか。	78.2%	4.1%	17.7%	75.0%	4.7%	20.3%
Q12	学校は、連絡帳・学部通信・学級通信等の、学習における記録を通じて家庭との連携や共通理解を図っていますか。	98.0%	1.4%	0.7%	97.6%	2.4%	0.0%
Q13	学校は、校報・ホームページ等を利用し地域に発信する取り組みを行っていますか。	85.7%	6.8%	7.5%	92.2%	3.9%	3.9%
Q14	学校は、PTA活動の充実、活性化に取り組んでいますか。	89.8%	4.8%	5.4%	94.5%	3.9%	1.6%
Q15	学校は、教育環境の整備に努めていますか。	88.4%	8.2%	3.4%	85.1%	9.4%	5.5%
Q16	お子様を本校に入学させたことに満足していますか。	93.2%	2.7%	4.1%	97.6%	1.6%	0.8%

※表中のR6「その他」=「わからない」と「無回答」を合わせた数。R7は「無回答」無しのため、「わからない」のみ数を示している。

※ **網掛け** は、積極肯定「大いにそう思う」と回答した結果が30%未満の項目。

<自由記述から（要約・抜粋）>

本校の教育活動に対するご理解やご協力に関する記述を多数いただいた。改善要望としていただいた事項のみ挙げる。

<改善要望事項>

- ・年間行事予定に関すること : 個別面談期間の給食実施希望 1、他学部の授業参観希望 1
- ・学習活動に関すること : 個別最適な指導への要望 1、指導方法に対する意見 1
- ・生徒指導に関すること : いじめ未然防止に関する要望 1
- ・進路指導に関すること : なし
- ・施設設備に関すること : グラウンドの整備 1、暖房について 1、教室の大きさについて 1
- ・送迎に関すること : 児童生徒玄関の朝の混雑緩和 1
- ・管理監督に関すること : なし
- ・学校の対応全般に関すること : 欠席連絡・バスへの連絡について 1、写真販売の要望 1

- ・保護者用のアンケート質問項目は全部で 16 項目
- ・自己評価の集計結果を「大いにそう思う」と「そう思う」を合わせて肯定的評価とし、「全く思わない」と「あまり思わない」を否定的評価とした。
- ・肯定的評価が 80%未満の項目は、昨年度同様 Q11 の 1 項目のみだったが、肯定的評価の数値は昨年度より上がった。
- ・肯定的評価は、昨年度と比べて総じてやや減となった。「わからない」が増えたことによるものと捉えている。なお、アンケートの回収率が上がったことと、「わからない」が増えたことの因果関係は不明である。
- ・昨年度と比較すると、肯定的評価・否定的評価のいずれも 5%未満の増減に留まっており、概ね昨年同様の評価を得られたと捉えている。（なお今年度の調査で 5%とは、7 名に当たる。）

イ 分析と考察

- ・昨年度と比較して、肯定的評価が増加したアンケート項目は、次のとおりである。
Q 5 (+1.0)、Q 8 (+0.9)、Q 10 (+2.6)、Q 11 (+3.2)、Q 12 (+0.4)、Q 15 (+3.3)
- ・Q 11 は、昨年度より肯定的評価が増えてはいるものの、78.2%と低さが依然として目立っている。Q 11 はいじめの未然防止、早期発見についての項目であり、昨年度から取組を強化し改善を重ねている取り組みの一つである。改善策としては、「分からない」を選択した保護者 (17.7%) を含めた全体への情報発信をさらに強化することと捉えている。例えば、入学説明会や PTA 入会式など様々な機会に、いじめ基本方針等、学校の取組について説明したり、報告したりする機会を増やしていく必要性を感じた。引き続き、学校と家庭が協力して児童生徒のよりよい人間関係づくりを進めていきたい。
- ・昨年度と比較し、肯定的評価が減少したアンケート項目は、次のとおりである。
Q 1 (-3.0)、Q 2 (-3.2)、Q 3 (-2.1)、Q 4 (-0.9)、Q 6 (-4.4)、Q 7 (-2.1)、Q 9 (-4.0)、Q 13 (-6.5)、Q 14 (-4.7)、Q 16 (-4.4)
- ・5%以上減少した Q 13 は、情報発信に関する設問であった。昨年度に比べホームページの更新回数が増え、アクセス数も 2000 回余りの増であったことから、評価が減少したことは残念である。「地域に」発信しているか否かを問う質問項目になっていることで「わからない」と回答していることも考えられるため、質問の仕方についても検討が必要である。今後さらに積極的な情報発信に努めるとともに、発信の仕方について工夫していきたい。
- ・教職員と保護者の肯定的回答の割合の比較は次のとおりである。（職員アンケートの Q 16 及び Q 17 と、保護者アンケートの Q 16 は非該当）。

(単位＝%)

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15
R7 職員	97.0	95.0	97.0	98.0	99.0	97.0	96.0	97.0	94.0	95.0	98.0	99.0	100	98.0	98.0
R7 保護者	94.6	90.5	93.2	95.2	93.2	92.5	92.5	93.9	89.8	93.2	78.2	98.0	85.7	89.8	88.4
差(職員-保護者)	+2.4	+4.5	+3.8	+2.8	+5.8	+4.5	+3.5	+3.1	+4.2	+1.8	+19.8	+1.0	+14.3	+8.2	+9.6

- ・職員と保護者との肯定的回答割合の違いは、Q11、Q13、Q15で特に大きくなっている。保護者の数値が低いこの3項目のうち、Q11、Q13は前述のとおりである。Q15については、昨年末に終えた教室改修工事の評価をいただく来年度の調査結果も合わせて考えたい。
- ・引き続き学校の活動について広く発信し、保護者への理解をより深く得ながら、地域に開かれた学校づくりを進めていく。

(3) 生徒アンケート結果

ア 概要 (R7 調査においては、中学部・高等部ともに2.6%＝1名、5.1～5.3%が2名に当たる。)

項目	質問内容	中学部 (38名)			高等部 (39名)		
		肯定的評価 (「はい」)	否定的評価 (「いいえ」)	わからない	肯定的評価 (「はい」)	否定的評価 (「いいえ」)	わからない
Q1	学校は楽しいですか。	92.1%	2.6%	5.3%	87.2%	7.7%	5.1%
Q2	学校の行事は楽しいですか。	97.4%	2.6%	0.0%	84.6%	7.7%	7.7%
Q3	学校にはやりたい勉強や活動がありますか。	92.1%	7.9%	0.0%	84.6%	7.7%	7.7%
Q4	友だちと仲よく勉強していますか。	89.5%	5.3%	5.3%	74.4%	7.7%	17.9%
Q5	先生の話はわかりますか。	86.8%	7.9%	5.3%	79.5%	10.3%	10.3%
Q6	先生はあなたの話や意見をよく聞いてくれますか。	89.5%	5.3%	5.3%	97.4%	0.0%	2.6%
Q7	先生はあなたが頑張ったことを認めてくれますか。	86.8%	0.0%	13.2%	89.7%	2.6%	7.7%
Q8	給食を楽しみ、食べ物を大切にしていますか。	94.7%	2.6%	2.6%	89.7%	2.6%	7.7%
Q9	地震や火事のときはどうしたらいいかわかりますか。	84.2%	2.6%	13.2%	84.6%	7.7%	7.7%

- ・中学部と高等部に同じ質問内容のアンケート調査を実施した。アンケート質問項目は全部で9項目である。
- ・「はい」という回答を肯定的評価、「いいえ」を否定的評価とした。
- ・中学部では、肯定的評価が80%未満の項目はなし。高等部は、Q4、Q5の2項目だった。
- ・「わからない」の回答として、中学部で最も多かったのは、Q7、Q9で13.2% (5名) だった。高等部で最も多かったのは、Q4で17.9% (7名) と、Q5の10.3% (4名) だった。
- ・中学部において、今年度と昨年度の肯定的回答の割合を比較してみると、次のようになる。

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
R7 (%)	92.1	97.4	92.1	89.5	86.8	89.5	86.8	94.7	84.2
R6 (%)	88.6	91.4	88.6	88.6	82.9	88.6	88.6	85.7	74.3
差 (R7-R6)	+3.5	+6.0	+3.5	+0.9	+3.9	+0.9	-1.8	+9.0	+9.9

中学部は、昨年度と比較すると評価が上がっている。特にQ8、Q9は昨年度と比較して大きく増加した。

- ・高等部において、今年度と昨年度の肯定的回答の割合を比較してみると、次のようになる。

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
R7 (%)	87.2	84.6	84.6	74.4	79.5	97.4	89.7	89.7	84.6
R6 (%)	85.7	88.6	94.3	82.9	100.0	94.2	100.0	100.0	85.7
差 (R7-R6)	+1.5	-4.0	-9.7	-8.5	-20.5	+3.2	-10.3	-10.3	-1.1

高等部は、全体的に評価が下がっており、9項目のうち5項目が昨年度より5.0%以上の減少となった。その中でもQ3、Q5、Q7、Q8は大きく減少した。

イ 分析と考察

- ・ 中学部は、昨年度と比較すると全体的に評価が上がっている。これは、「わからない」の割合が減少したことによるもので、評価の傾向としては昨年度とほぼ同様となった。今年度は、回答の仕方によって有効回答と無効回答を分けたことにより、「わからない」の割合が減少し、減少した分が肯定的評価に加わったものと捉えた。
- ・ 高等部は、全体的に評価が下がっており、9項目のうち5項目が昨年度-5.0%以上の減少となった。その中でもQ5「先生の話はわかりますか」、Q7「先生はあなたが頑張ったことを認めてくれますか」、Q8「給食を楽しみ、食べ物を大切にしていますか」の3項目については、-10%以上の減となった。これらの結果から、授業やその他の指導場面で不安を抱えている生徒がやや増えたと言える。一方で、高等部の生徒は、成長に伴って自分なりの考えをもつようになり、学校生活や教職員との関わりについても、より丁寧に感じ取ろうとする姿が見られる時期である。このような発達の特徴を踏まえ、生徒一人一人の思いや受け止め方に寄り添いながら、指導の伝え方や関わり方を工夫し、安心して学校生活を送ることができるよう、より良い信頼関係づくりに努めていく。

(4) まとめ

- ・ 学校評価の結果を受けて、今年度における本校の教育活動で改善の必要がある項目や方向性について確認することができた。来年度の学校経営に反映させていきたい。
- ・ 保護者アンケートでは、昨年度より回収率が上がったことにより、多くの人の意見を反映できる形となったため、例年より評価の精度を上げることが出来た。内容については、いじめ対応に関する情報発信について課題が残るものの、全体としては学校教育に対して保護者の皆様から高い評価をいただいたと認識している。
- ・ いじめへの対応については、保護者の理解をさらに得られるよう情報の発信に工夫が必要である。いじめへの対応については、まず学校の取り組みを見える化し、「わからない」という回答を減らすことに引き続き取り組みたい。
- ・ 今回、学校評価の保護者用調査の実施については、インターネットを介しての回答後に「回答済連絡票」の提出を求めることにより回収率を高めることが出来た。また生徒用調査については、調査項目に設問を加えることにより「わからない」、「無回答」を一定の基準で区別することが出来た。
- ・ 教育活動の質を更に高めていくことはもちろん、安心安全な学校生活の保障を大前提としながら、家庭、地域、関係機関との情報共有や意見交換等コミュニケーションを一層図り、共通理解のもと、児童生徒一人一人の可能性を伸ばし、信頼される学校づくりをさらに進めていきたい。